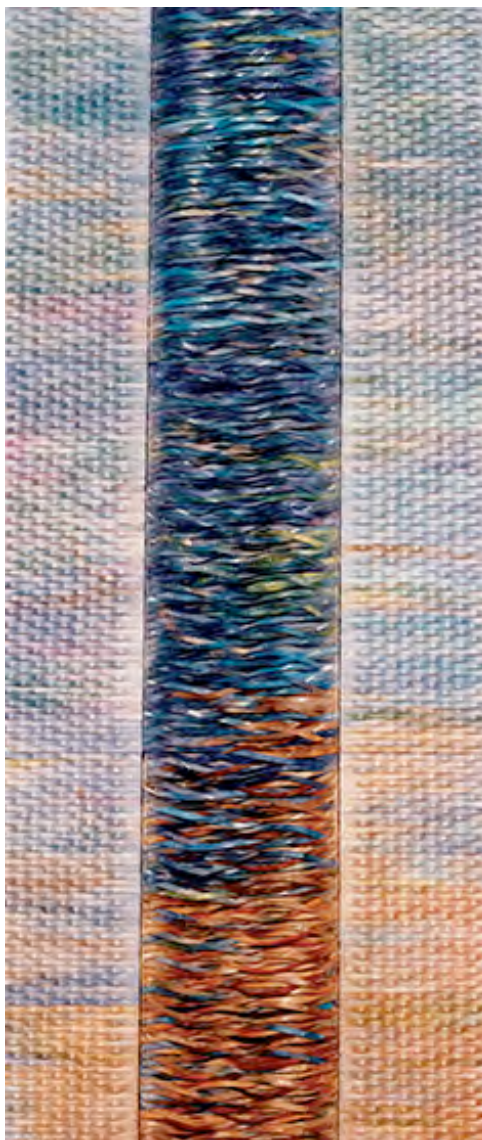


『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 吉田 淳子

作品作りは織物から始まり、山口和加子さん（SD 通信 Vol.30）と同じ先生に師事しました。素材を織から和紙に変え、平面でも立体でも表現可能な和紙の持つ魅力に惹かれ制作するようになりました。新制作展に出品した表現方法の違う3つの作品を紹介します。

【作品 1】



作品1 「水と光のシンフォニー」 ver3.jpg

「水と光のシンフォニー」1995年

第59回新制作展 新作家賞受賞

共同制作 山口和加子 吉田淳子

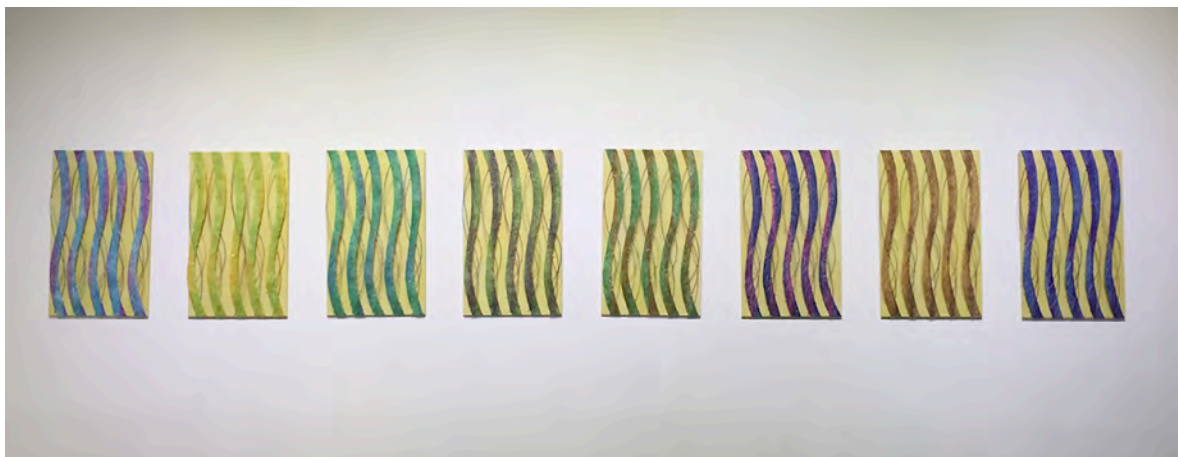
W130×H300×D7

1993年に山口和加子さんとの共同制作で出品し、この年に新作家賞を受賞した作品です。共同制作は和紙を素材に、テーマ・デザイン・テクスチャーを話し合い、一つ一つ積み重ねながら制作していきました。この作品は、水の流れや水面にさしこむ光を、和紙を巻いた紙バンドをねじったり、凹凸をつけて表現しました。私にとっては、その後の制作に力を与えてくれた1点です。

【作品 2】



「極光」 2016 年
第 80 回新制作展出品
W125×H300× 4



「流景」 2016 年
いりや画廊 グループ展
W60×H100×D3

「極光」は、これまでは直線的なデザインが多かったのですが、前回の新制作展から曲線を意識して和紙を巻いたワイヤーを組み合わせて連続させた作品で、オーロラの色をイメージし制作しました。

「流景」は、いりや画廊でのグループ展に展示した作品で、同じテクスチャーで水の流れを8点で構成しました。

以前は、山口さんとの二人展が作品の発表の場でしたが、最近はグループ展が発表の場になっています。

【作品3】



「万華鏡」 2019年
第83回新制作展出品
W220×H130×D3.5



「折形」2020年
いりや画廊

この作品は、折り紙または折形という和紙で進物を包むときの方法や祝儀袋などからヒントを得て制作し、折り重ねた時に出来た空間と色の移り変わりを表現しました。和紙の持つ暖かさや染めた時の風合いを感じつつ、新たな技法や表現方法を見つけながら制作したいと思っています。

吉田 淳子 プロフィール



茨城県生まれ
文化女子短期大学卒
新制作協会会員

- 1982 グループハンク
(松屋クラフトギャラリーなど)
- 1987 工芸都市 高岡 87' クラフト展金賞受賞
- 1988 工芸都市高岡 88' クラフト展入選
- 1990 山口和加子 吉田淳子展
(ワコール銀座アートスペース)
- 1993~ 新制作展出品
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
- 1995 第 59 回新制作展 新作家賞受賞
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
- 1996 山口和加子 吉田淳子展
(ワコール銀座アートスペース)
- 1998 ORIE 現代アート 100 (草月ギャラリー)
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
素材を追って 繊維によるころみ 98
(世田谷美術館)
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
- 1999 山口和加子 吉田淳子展
(ワコール銀座アートスペース)

- 2000 新進作家タピストリー 6 人展 (ORIE ギャラリー)
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
第 21 回インパクトアートフェスティバル
(京都市美術館)
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
- 2001 山口和加子 吉田淳子展
(ワコール銀座アートスペース)
- 2003 素材でつくる空間 FIBER WORKS “山荘”
(リビングデザイン)
- 2006 素材との出会いーfiber・textile 5 人展ー
(銀座画廊るたん・ 益子 kyohansix galley)
- 2008 山口和加子 吉田淳子展 和紙による造形
(千疋屋ギャラリー)
ミニアートテキスタイルコモ入選 (イタリア)
(山口和加子・吉田淳子 共同制作)
- 2011 グループ展ーファイバーの世界で
(千疋屋ギャラリー)
- 2014 グループ展 Reconsider (いりや画廊)
(2016、・2018・2020 年)